

平成 25 年 6 月 28 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長 田代 宗雄
(コード 2388 大証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 執行役員 横山 幸弘
(TEL 03 - 6225 - 2207)

日系企業によるアユタヤ銀行の買収は GL の追い風に
～ファイナンス事業子会社のニュースリリースより～

当社の連結子会社で東南アジアにおいてファイナンス事業を行う Group Lease PCL (以下 GL) は、2013 年 6 月 25 日タイ証券取引所 (SET) で報道陣の取材に対応、内容を同社ウェブサイトのニュースリリースとして発表しております。日本語訳を添付いたしますのでご参照いただけますようお願いいたします。



以前より予想されていた日系企業 東京三菱 UFJ 銀行によるアユタヤ銀行の買収はタイ証券取引所 (SET) に上場しているオートバイリース会社 Group Lease Public Company Limited(GL)にとって非常に大きな追い風だ。なぜなら、アユタヤ銀行の大株主である G.E. Capital が同社の株式を東京三

菱 UFJ 銀行に売り渡すことにより、G.E. Capital が扱うリース事業のうち大きな割合を GL が奪うチャンスとなるからです。

タイ株式市場が、東京三菱 UFJ 銀行によるアユタヤ銀行の買収の正式確認を待っている状況にあるなか、GL の最高経営責任者会長の此下益司氏は、本日（2013 年 6 月 25 日）本件に関して楽観的な評価を示した。「G.E.社は、これまでタイでオートバイリースを積極的に展開していました。しかし、（G.E.社からアユタヤ銀行の株式を購入予定と言われている）東京三菱 UFJ 銀行は、個人向けリース事業に興味がない。従って、我々にとって市場シェアを拡大する好機になる」と此下氏は述べた。

タイのオートバイリース事業は現在雨季の影響で停滞している。しかし此下氏によれば、GL社は、新規ディーラーの増加の影響により、より多くの案件を取り込める見通しだ。既存ディーラーの売上は減少しているものの、市場傾向とは正反対に、GL社は好調な売上成長を達成し続けると此下氏は強く語った。

GLの5月月間売上台数は、約8,500件に上昇（昨年5月5,900件（44%増））し、今月は更に3%上昇する見込み（前年7月5,600件（56%増））となっている。GL社の修正月間売上台目標は12,000件で、年末までに十分達成できる見通しで、軌道に乗っていると此下氏は述べた。

GLは、今第1四半期の純利益において、成長率63.6%の91.3百万バーツと発表した。GLは、将来の急成長を支えるためバックオフィス運営の合理化やITシステムの強化のため、純利益の成長速度が現在の第2四半期にてやや緩和すると予想している。此下氏は第3四半期に再び積極的な成長軌道に戻ると自信を持っている。

一方、完全子会社のGL Finance (GLF) が引き受けているカンボジア事業は、第3四半期における月間売上台目標2,000台とし、本格稼働に向けて順調に進んでいる。カンボジアは、競合が存在せず、リース事業自体が初めてであるため、GLFは「時間をかけて確実な」戦略と万全な準備で最大な効率を確保すべく進められている。200名の顧客によるトライアルでは焦げ付いた融資が0%となり（盗難案件2件を除く）で高い満足度を証明できた。

人気のHONDAブランドオートバイを供給する独占権を持ち、カンボジアの巨大な潜在市場を開拓しているGLFは、現在プノンペン以外で3つの新しい営業拠点を準備、合計16の営業ネットワークとなる（バタンバン2店、ラタナキリ1店）。

カンボジア事業は、第3四半期よりGL社に大きな売上貢献をし始める。同時に、カンボジアにおけるマイクロファイナンス事業運営に関わる交渉等も進みつつあるなど順調に進んでおり、第3四半期の純利益にも大きな結果が表れることが期待される。

GLは、今週、カンボジア国立銀行（NBC）副総裁Chea Serey氏が率いるNBC上級代表団のバンコク訪問を主催する。代表団は本日、タイ証券取引所（SET）を訪問し、SET取締役副社長Chanitr Charnchainarong氏によるタイ株式市場の概要説明及びタイにおけるリース事業の取り組みについて説明を受ける予定となっている。

以上